

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版, CASBEE-環境2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)レーベン鶴瀬 新築工事	階数	地上8F
建設地	人間郡三芳町大字藤久保字保埜30	構造	RC造
用途地域	第1種住居及び中高層、第22条区域	平均居住人員	420 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2018年6月15日
敷地面積	4,743 m ²	作成者	株式会社デベロップデザイン
建築面積	1,824 m ²	確認日	-
延床面積	9,942 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 建築物内外の環境に配慮した建築計画とする為、断熱性能、省エネルギー性に配慮し、太陽光発電・LED照明・複層ガラスを取入れた。また劣化対策に加え、緑化計画の調和に留意した。		その他
Q1 室内環境 ほぼ全面的にF の材料を使用することや適切な換気計画とすることで、室内空気質環境に配慮している。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い材料や防汚性材等を採用し、建物の維持管理に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 道路境界から後退した建物配置とし、可能な限り敷地境界沿いに植栽をすることで、周辺環境に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー 等級3相当の外皮性能を確保すると共に、LED照明等による設備システムの効率化を計画することにより、エネルギー消費を低減させることに配慮している。共用部分の照明は全てLEDを採用している。	LR2 資源・マテリアル 断熱材を採用している。	LR3 敷地外環境 「光害対策ガイドライン」チェックリストを基に、光害抑制に配慮している。ライフサイクルCO ₂ 排出率が一般的な建物に対して68%ととし、地球温暖化への配慮をしている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
(仮称)レーベン鶴瀬 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
 評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
0 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境					0.40		-		3.2
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能					-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20		
1.3 吸音					-		-		
2 温熱環境				2.4	0.35	3.0	1.00		2.9
2.1 室温制御				2.6	0.50	3.0	0.71		
1 室温				3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能				2.0	0.38	3.0	1.00		
3 ゾーン別制御性					-		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	0.29		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.3	0.25	3.1	1.00		3.0
3.1 昼光利用				1.8	0.30	2.5	0.35		
1 昼光率				1.0	0.60	2.0	0.50		
2 方位別開口					-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.35		
1 昼光制御		専)居室:庇(バルコニー)+カーテン		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.29		
4 空気環境				3.6	0.25	3.8	1.00		3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		F 建材を全面的に使用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.40	3.6	0.38		
1 換気量		専)1.4倍以上確保		3.0	0.50	5.0	0.33		
2 自然換気性能					-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理					-		-		
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御					-		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.2
1 機能性				2.2	0.40	3.8	1.00		3.6
1.1 機能性・使いやすさ				1.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応		Gbitシステム対応が可能			-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画				1.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観					-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画				3.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.7	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		等級3		5.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床シートフローリング20年、壁PB+ビニルクロス20年、天井PB+ビニルクロス30年		4.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水汚水雑排水管の主要3種についてB以上、Eを不使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				2.8	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラス		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					2.6	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	MB、PF管配線の採用	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				0.30			2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.2
LR1 エネルギー				0.40			3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級3相当	3.0	0.20			3.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10			2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.92	3.8	0.50			3.8
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制		3.0	1.00			
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				0.30			2.8
1 水資源保護			3.0	0.20			3.0
1.1 節水			3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60			2.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装が乾式工法で分別容易(LGS+内装材)	4.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70			
1	消火剤						
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50			
3	冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して68%	4.2	0.33			4.2
2 地域環境への配慮			2.9	0.33			2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制		3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動						
3	悪臭						
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制						
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満たす、広告物照明がない	5.0	0.70			
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			

CASBEE埼玉県

重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)レーベン鶴瀬 新築工事	BEE	1.1	BEEランク
------	-----------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
4.2	+	2.6	=	6.8
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	4.2
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.2
ライフサイクルCO ₂ 排出率が一般的な建物に対して68%ととし、地球温暖化への配慮をしている。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
可能な限り敷地境界沿いに植栽をすることで、温熱環境に配慮した計画としている。			

: 入力欄